

「銭湯の日」

10月10日は銭湯の日だそうです。京都には京都市を中心に古くからの銭湯がたくさん残っています。厚生労働省の「衛生行政報告例」から人口10万人あたりの一般公衆浴場の数を調べてみると、平成21年度の上位10都道府県は表1のようになりました。京都府は7位です。この順位はここ数年変わっていません。

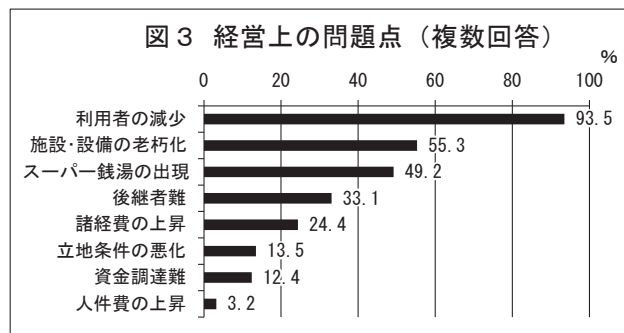
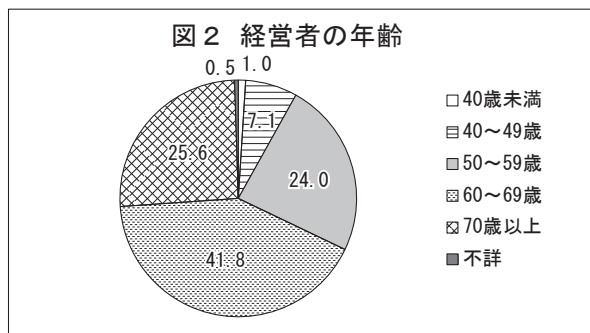
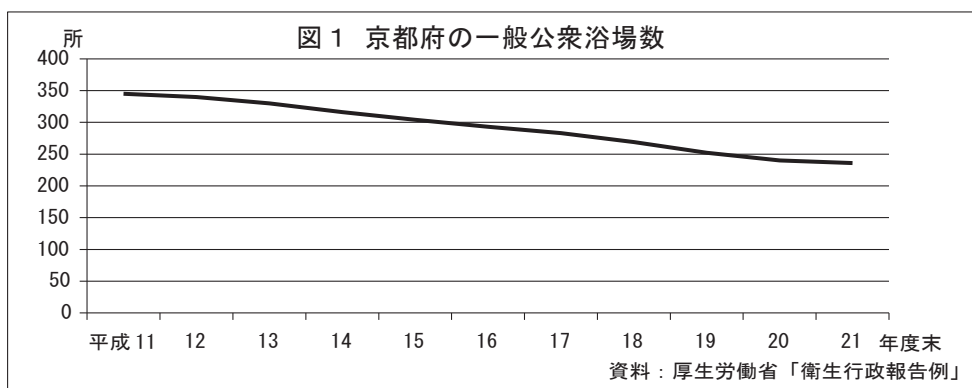
同じ統計から最近10年間の京都府内の施設数の推移をまとめたものが図1です。年々減少し、平成11年度末には345軒であったのが、21年度末には236軒となっており、ここ10年間で30%以上減少しています。

少し古いデータですが、厚生労働省「平成14年生活衛生関係営業経営実態調査 一般公衆浴場」によると、経営者の年齢は60～69歳が41.8%と最も多く、次いで70歳以上が25.6%となっており、60歳以上が約2/3を占めています。また、経営上の問題点を尋ねた設問（複数回答）に対しては、利用者の減少を挙げた施設が93.5%に上りました。（図2、3）

表1 人口10万人あたりの一般公衆浴場の数
(平成21年度末)

	全国	
		4.3
1位	青森県	24.5
2位	鹿児島県	19.5
3位	大分県	15.3
4位	富山県	11.9
5位	大阪府	10.7
6位	石川県	9.2
7位	京都府	9.0
8位	北海道	7.8
9位	東京都	6.5
10位	奈良県	6.1

資料：厚生労働省「衛生行政報告例」
総務省「人口推計」



しかし、近年では銭湯に関する図書の刊行や、ホームページの開設、イベントの開催等、銭湯のよさを見直す動きも出てきています。日頃、銭湯を利用されない方も一度、銭湯へお出かけになり、家庭のお風呂とはまた違った大きな浴槽でのんびりされてはいかがでしょうか。